

論弾にお世話になってから、1年が経ったことを感謝し、一層の本紙の拡販と拡充の為に微力を注ぎたい。

最近の論弾の調子を拝読すると、農業・漁業・林業など一次産業全般に対する厳しい内外の状況が指摘されている。WTO問題は、協同組合通信の読者や関係者にとって、関係各国の動向やニュースが会議の様態と共に逐次解説されている。即ち、情報はあるということ。関税障壁、作物の安全安心、原産地国と消費国家の思惑が輻輳している。ここに、アメリカ極の国家の軍事力の突出による、軍事・外交・宗教を巡るバランス力が日々揺れ動いている。

最早、9.11以前に帰れない米国の国家事情がある。フランス・ドイツ・ロシアが束になっても叶わない現実があり、我国は人類が生み出した史上最高・最良の憲法に改正の動きまである。正に、今の日本は無定見で科学的知識のない、従って健康的な的確な判断力のない、傘に隠れた危うい集団にリードされている状況にある。何よりも、社会に対する判断能力とコミット能力がなくなった最高学府・大学に本来の役割と奮闘を期待している。

さて、先月には、終に茨城県漁連が経営破綻した。組合員へ奉仕するという本業が忘れ去られていた結果が出た。漁連専従員の組織のための漁連であり、組合員や消費者に対するサービスの本質不在、積極的なIT化への取組みが成されていたのか疑念がある。国家の補助や助成金頼りの反面、自己中心的関係官庁への圧力団体としての奢りがなかったか。民間では想定できない高給を食む、トップ天下りの甘さがなかったか。何度も退職する雪だるまのような退職金へ身内の暗黙了解。今や、どのような経営形態であっても、エンドユーザへのサービスを根本としたサービス体制のシステムが出来ていない組織の運命を示唆。

昨年の雪印事件を反面教師に出来ない組織は、早晚退場が確実だろう。

我国は、数年で最後の集団としての頑張り世代・団塊が引退し、世界でも珍しい少子高齢化社会が一気に出現する。団塊以降の世代との人生観、家庭観にかかってないギャップがある。これら60代以上が健康で、次の世代へしっかりバトンを渡すための国家としての社会システム整備が緊急かつ最重要。人は、日々の食べ物から出来ている。人は健康であれば、高齢はむしろ善である。

よって、国民が食する農産物・魚介類・キノコ等、国内に産し・流通している食品の六大栄養素・ビタミン・ミネラルの実体を把握する必要がある。

米国にも素晴らしい知識人があり、成果としてレポートが公開されている。

国家の全エネルギーと国家財政を注ぎ込んだマクガバンレポートを、世界の健康を考える最上のバイブルとして、認識周知することが大切だ。

年々激増する高齢者の医療費対策。効果的なのは、治療ではなく病気にならない為の予防のみ。医者さえ、技術者として当てにならない。増加する医療費対策の保険料見直しではなく、安全な食糧対策が健康問題の本質だ。ここまでくれば、自明の理、口にする食物の安心・安全・栄養価だ。

我国は、伝統的な農業と健康食があることを再認識すること。今夏の北半球で発生した異常気象。パリの1万人を超える熱波による死者の数は、最近の我国の1年間の交通事故による死亡者を越えている。また、根拠なきデマで大騒ぎした SARS 禍による災害を遥かに超えた。天候の変化への対応力次第で、文明社会を謳歌していた筈のパリジェンヌさえあっけない。そこに油断がなかったか。春先に連続して発生しているシベリアの大火、中国の大洪水の頻発など、天候の影響は計り知れない。

グルメに奢ることなく、健康的で美味しい我国の農産物に対する、国家的取組みが最も必要な時期に来ている。少なくとも、主食まで外国に頼る情けない状況の改善。四囲を豊穡な水産資源に恵まれた国は、どこにもないではないか。

そのために、幼稚園の頃から正しい、食や健康に対する教育と実践プログラムが望まれる。実体認識なければ、正しい判断もできるわけがない。難しい理論や話よりも、国家の宝というなら、子供達にもっと農業・漁業・林業体験出きる社会的システムの構築が必要だ。教育現場のレベルに合ったマクガバンレポートの内容の授業もその一つ。勉強不足の教師の認識が大事。

滋養のある食物を、安定して取ることができれば、現代の多くの問題は解決できる。農業と水産業の関係者に期待すること大。地産地消やスローフードに対する認識が高まっている今が、農家と漁師の培ってきた智恵の出どころ。

躊躇していたら、千載一隅かつ存在の価値をたちまち失う。

(気象情報システム株式会社 高津敏)